

乾田直播栽培における初期生育量確保を目的とした 施肥法

福島県農業試験場相馬支場
平成13～17年度試験成績概要

- 1 部門名 水稲－水稲－施肥法・浜通り平坦・水稲直播
分類コード01-01-13687500
- 2 担当者 中山秀貴・菅田充
- 3 要 旨

乾田直播栽培で「あきたこまち」のような早生品種を用いる場合、幼穂形成期の茎数は穂数、収量に大きく影響する。肥効調節型肥料を用いた初期生育確保のための施肥法について検討した。

(1)分げつ初期(入水6月10日～6月末)の分げつ数増加量(本/m²/day)は、LP40主体施肥区(LP40(窒素0.8kg/a)にLPS60またはLPS80(窒素0.2kg/a)を混用)がL70主体施肥区に比べ2～3(本/m²/day)程度多かった。

(2)3年間の収量は、LP40主体施肥区が安定して高く、玄米タンパク含量もLP100区や穂肥実施区に比べ低かった。

(3)総施肥窒素量0.8kg/aとし、LP40とLPS60の組み合わせ比率を変えた無追肥での栽培法を検討したが、組み合わせに関わらず生育量の確保が難しいと考えられた。

(4)穂肥施用区の籾数、精玄米重は穂肥無施用区に比べ15%ほど増加した。

(5)以上のことから、乾田直播栽培で初期生育量確保を目的とする全量基肥施肥では、LP40を窒素0.6～0.8kg/aにLPS60やLPS80を組み合わせ、総窒素1.0kg/aを施用することが適当であると考えられた。また、穂肥0.2kg/a施用が効果的であることから、「LP40主体の0.8～1.0kg/a基肥施肥」+「生育状況を見た穂肥施用」により、安定生産と肥料低投入が同時に成り立つと考えられた。

- 4 その他の資料など